

# 農空間

第64号

発行所  
福島県農林水産部  
農村振興課

## 【特集】 多面的機能支払交付金は 地域の共同活動を支援します

多面的機能支払交付金は、農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮の観点から、地域内の農業者等が共同で取り組む地域活動を支援する事業です。今年度からは法律に基づいた安定的な制度として引き続き地域の共同活動を支援していきます。

多面的機能支払交付金は、農地・水路・農道等の地域資源の基礎的な保全活動を行うための交付金(農地維持支払)と、資源の質的向上を図る共同活動を実施するための交付金(資源向上支払)から構成されています。

〔農地維持支払〕  
農地法面の草刈り、水路の泥上げ、農道の路面維持等の多面的機能を支える活動に対して、活動組織へ交付金が交付されます。農地維持支払交付金は農業者のみの取組でも支援の対象となるほか、個人で維持管理している畦畔の草刈りも交付の対象とすることができます。

〔資源向上支払〕  
資源向上支払は①「地域資源の質的向上を図る共同活動」と②「施設の長寿命化のための活動」から構成されます。前者は水路・農道などの軽微な補修や景観形成のための植栽活動などに対して、後者は、老朽化が進む水路・農道などの補修・更新等を行う活動に対して交付金が交付されます。

資源向上支払のイメージ 農地維持支払のイメージ



本事業は、平成19年度から始まった「農地・水保全管理支払」が拡充され、平成26年度からスタートしました。平成26年度は、県内52市町村、908組織、取組面積は45202ヘクタールで実施しています。近年、農村地域では、過疎化、高齢化等に伴い集落機能が低下してきており、地域の共同活動によって支えられている多面的機能の維持・発揮に支障が生じて

○10aあたりの交付単価は下表のとおりです。  
(※資源向上支払①で5年以上の継続地区等は7.5割単価が適用されます。)

地目	農地維持支払	資源向上支払①		同左②
	基本単価(円)	基本単価(円)	7.5割単価(円)	基本単価(円)
田	3,000	2,400	1,800	4,400
畑	2,000	1,440	1,080	2,000
草地	250	240	180	400

います。加えて、共同活動の困難化に伴い、水路等の保全管理に対する担い手農家の負担も懸念されています。県としては、この事業が県民の皆様に理解され、地域が一体



多面的機能支払の協議会が主催する写真コンテストの最優秀賞

となつて農村環境を守る意識が高まるよう、推進を図っていきたいと考えております。  
《農村振興課》

### 本県農業の復興・再生に「チャレンジ」 農林水産部次長(農村整備担当) 須田 博行

東日本大震災及び原発事故により、福島県の農林水産業は甚大な被害を受けました。震災から4年4ヶ月が経過し、本県における復旧・復興は、関係者の努力と県外からの多くの支援により確実に目に見える形になってきたところです。一日も早い本県農業の再生には、被災地における営農再開が欠かせないことから、農業生産基盤の早期復旧・整備に最優先で取り組んでまいります。

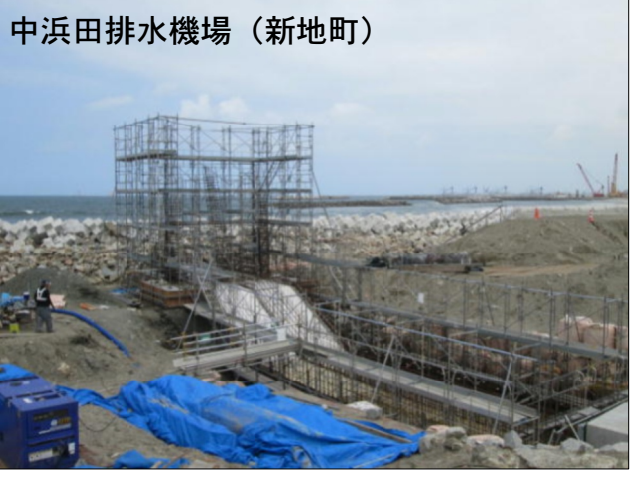
さて、今年3月に「新たな食料・農業・農村基本計画」が閣議決定されました。集落の人口減少等が進む中、農地・農業用水などの貴重な地域資源の喪失や農業水利施設の老朽化など、この状況を放置すれば食料の安定供給の確保と多面的機能の発揮に支障が生じるとして、新たに食料自給率向上を示すにあたっては「農業用水が十分に確保されているとともに、農業水利施設等の生産基盤が適切に保全管理・整備され、その機能が十分に

### ふくしま復旧便——県内からのお便り——

相双管内にある34排水機場のうち、33機場が東日本大震災の地震及び津波で建屋が流失したり、排水機能が失われる等の大きな被災を受けました。排水機場の復旧は海沿いの農地復旧に先駆けて行わなければならないことから、避難指示区域外の21機場及び避難指示区域内の1機場合わせて22機場について平成23年度に災害査定を受け、応急仮復旧工事や本復旧工事を県外派遣職員の方々の応援を得ながら進め、平成26年度までに14機場(64%)の復旧が完了し、一部農地で営農が再開しています。

避難指示区域内の7機場は、国が特定直轄災害復旧事業として平成25年度から平成30年度完了を目指し復旧工事を進めております。

今後は、海岸堤防工事との施工調整が必要な樋管工事を中心に8機場で工事を進め、昨年度に査定を受けた1機場とあわせ、9機場の早期復旧に全力で取り組んでいきます。



中浜田排水機場(新地町)

排水樋管工事中  
奥に見えるのが太平洋 釣師海岸  
工事と調整を行いながら施工中



完成した大戸浜排水機場(新地町)  
鉄筋コンクリート造に建屋構造を変更



被災直後の大戸浜排水機場(新地町)  
木造の建屋が流出



ふくしまからはじめよう。

Future From Fukushima.



福耕支援隊情報

相双管内には20の農地海岸があり、その内19海岸で地震・津波により甚大な被害を受け、帰還困難区域を除く16海岸で災害査定を受け復旧に取り組んでいます。

6月に北海道から来ました。宮城県も含めて今回が2回目の東北勤務になります。福島県の皆様には、親切に接していただき、日々感謝しております。

復旧、復興に向けて少しでも貢献できるようなプロパー職員のご指導のもと頑張っていきたいと思っております。

東日本大震災に係る災害派遣については、昨年の宮城県(上半期6ヶ月)に続き2回目です。今回は1年間の派遣となります。

埼玉県 町田昌司さん



農村整備第一課の福耕支援隊メンバー



海岸災害復旧事業 消波ブロック製作ヤード(繁岡地区)

初めての福島、初めての海岸復旧事業に不安もありましたが、皆さんの昼夜を問わない情熱的な「おもてなし」に大変感謝しております。

地域に根ざした水土里ネット 安積疏水土地改良区

安積疏水は、猪苗代湖を水源に郡山市、須賀川市、本宮市、猪苗代町、大玉村を管内としています。今から135年前、明治政府の土族授産、開墾事業を目的に国直轄第1号の農業水利事業として明治12年に着工され、3年後の明治15年に130kmに及ぶ安積疏水が完成しました。



ファン・ドールン銅像前 集合写真



田子沼分水工見学



上戸頭首工見学



十六橋水門見学

「ふくしまの農育」推進事業は、農村地域の自然環境を学びの場として活用し、年間の体験活動(田植え・苗植え、生きもの調査、稲刈り、収穫)を通して豊かな感性と深い見識を持った子供達を育てることを目的としています。



田植えの様子



生き物調査の様子

今年度より「農空間」の所管は農村計画課から農村振興課へと移行しました。慣れない作業が多く、紙面のレイアウト等に苦戦しながらもなんとか今回の第64号の発行となりました。

編集後記

「農空間」とは、農村において繰り広げられる農業の営み、それを支える農地や水、人々の生活、そして、美しい自然に囲まれ長い間に培われた伝統・文化などが溶けあった空間のことです。



「農空間 復旧への歩み」パネル展の開催 6月13日〜24日まで、いわき市・ら・ミュウにて、パネル展を開催しました。昨年に引き続き東日本大震災による本県の被害状況及びその後の復旧状況についてパネルを展示しました。